

風土記の丘の花だより²⁹⁰

今、そしてこれから見られる植物(2025年9月27日)

秋分の日が過ぎて、やっと暑さが和らいできました。このまま秋になってくれるといいですね。ハギが何種類か咲き、フジバカマも咲き始めています。これから秋の花が楽しみです。あれだけ暑く、それに続く残暑が厳しかったのに、ヒガンバナは時を違えずに咲いてくれま



した。ヒガンバナは「まんじゅしゃげ」とも呼ばれ、昔から人々の近くにあった花です。とても華やかで、美しく存在感のある花です。中には縁起の悪い花とおっしゃる方もいますが、それは人それぞれでいいと思います。かつて明治生まれの方に「戦時中はこの球根を水で晒して、デンプンを取って食糧にした」とう話を聞いた記憶があります。今となっては昔話ですが、人とヒガンバナは様々な関わり方をしてきたのでしょう。



キンミズヒキの黄色い花が咲いています。全体像を写したので、逆に分かりにくくなったかも知れませんが、葉を下に広げ、花茎を上には伸ばして、小さくて黄色い花をたくさん付けるバラ科の植物です。花の後にはとげとげの付いた実ができ、「ひつつき虫」となり、ズボンの裾などによくくっついてきます。それほど目立つ花ではありませんが、林床や山道の脇などでよく見かけます。



旧谷山家の庭や、その近くの山裾でナンカイギボウシが咲いています。先が尖った葉が何枚も重なり合い、その上に何本もの花茎が伸びて紫色の花がたくさん咲いています。でも、アレチヌスビトハギのひつつき虫がたくさんあります。庭に入るときは、十分に注意してください。あれは取るのが本当に面倒です。ところでギボウシは「擬宝珠」と書き、橋の欄干の上などに付いている先の尖った丸い飾りのことです。葉の形がそれに似ているのです。



ヨメナの花が少しずつ増えてきました。下手くそな素人写真なので、白く写っていますが、実際は薄紫色の花です。昔は新芽を摘んで食用にしたそうで、万葉集にはこんな歌が残っています。「春日野(かすがの)に 煙(けぶり)立つ見ゆ 娘子(おとめ)らし 春野のうはぎ(ヨメナの古名) つみて煮らしも」 ゆったりした時間が流れている様子が伝わってきますね。

松下